

第35回 LET 九州・沖縄支部研究大会に向けて

大会実行委員長 中野秀子(九州共立大学)

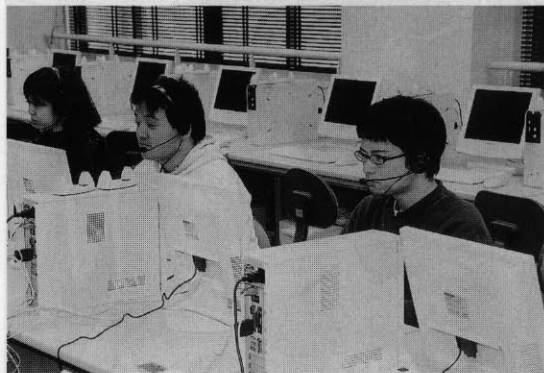
改革・変革という言葉はここ数年日本の政治・経済・教育とあらゆる分野で掲げられてきましたが、recessionから抜け出せない日本は未だに目標に到達せず、もがいています。このような先の見えない状況下で、企業の救世主の一人カルロス・ゴーン氏は、「大事なことは10年、15年後の日本の目的地を示すこと。日本全体が悲観的になり過ぎだ。強みを忘れたらチャンスをなくす。常に、将来の可能性がどこにあるかを考えよう。」とエールを贈っています。



平成13年1月、政府は高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部から「e-Japan 戦略」を打ち出し、同年6月に「e-Japan 重点計画-2002」を示し、「教育及び学習の振興並びに人材の育成」の具体的な目標を掲げています。「e-learning」はまさに改革のキーワードでしたが、平成14年7月、文部科学省がゴーン氏のエールより大きなインパクトを打ち出しました。『「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想」英語力・国語力増進プランです。さらに、平成15年3月31日、今後5カ年で「英語が使える日本人」を育成する体制を確立すべく、『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」が文部科学省から示されました。即ち、「英語が使える日本人」育成の目標に「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」「大学を卒業したら仕事で英語が使える」ことを掲げ、英語教育改善のためのアクションとして以下の7項目を掲げています1. 英語

の授業の改善 2. 英語教員の指導力向上及び指導体制の充実 3. 英語学習へのモチベーションの向上 4. 入学選抜等における評価の改善 5. 小学校の英会話活動の支援、6. 国語力の向上 7. 実践的研究の推進)。e-learningやIT教育に関心を持ち、取り組んでいる私たち語学教員にとってこの文部科学省のプランは、今後の教育研究の手掛かりとなるのではないのでしょうか。

この時機のニーズに応えるべく、外国語教育メディア学会(LET)第35回九州沖縄支部研究大会が平成15年6月14日(土)、九州の北の玄関口、福岡県北九州市の学術研究地区として発展する八幡西区の一角をなす九州共立大学で開催されます。e-Learningの現状と今後の展望:『「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想」を受けてというタイトルのシンポジウムと16件の研究発表が予定されています。シンポジウムでは文部科学省の開発に携わっておられる田口純先生(筑紫女学園大学)にコーディネータをお願いし、産学官の立場から小野博先生(メディア教育開発センター)、細谷行輝先生・堀井祐介先生(大阪大学)、岸田徹氏(ネットラーニング社)をパネリストとしてお迎えします。小野博先生には、文部科学省が打ち出した「戦略構想」についての概略と、現在推進されている英語リメディアル教材とプレースメントテスト開発について、細谷行輝先生と堀井祐介先生には大阪大学大学院工学研究科で行われている



e-learning について、岸田徹氏には企業内教育での e-learning の現状と今後の課題、TOEIC 対策用ソフトの企業での利用状況、企業と大学との e-learning での連携（就職内定者への対応など）などについてお話いただき、文部科学省の「戦略構想」をどのように推し進めていくか、フロアの皆様と議論していただきたいと思っています。

開催校の九州共立大学は工学部 6 学科、経済学部 2 学科、大学院 1 研究科 4 専攻、および博士後期課程 2 専攻を持つ総合大学で、福岡市より特急で 30 分の折尾駅より徒歩 15 分の場所に位置しています。昨年より図書館 4 階

にマルチメディアフロアが設置され、ノートパソコンの 3 週間貸し出しや自由なインターネット環境を提供するなど e-learning に積極的に取り組んでいます。本年から“e-sia”イントラパックによる on-line 語学教育システムが導入されました。本研究大会の昼休みに見学ツアーを予定していますのでご興味のある方は是非ご参加ください。九州共立大学で開催される、外国語教育メディア学会（LET）第 35 回九州・沖縄支部研究大会に多数の皆様が参加されて、今後の語学教育の目的地と可能性を探す手がかりとならんことを心より願っています。

九州共立大学 LL・CAI 教室について

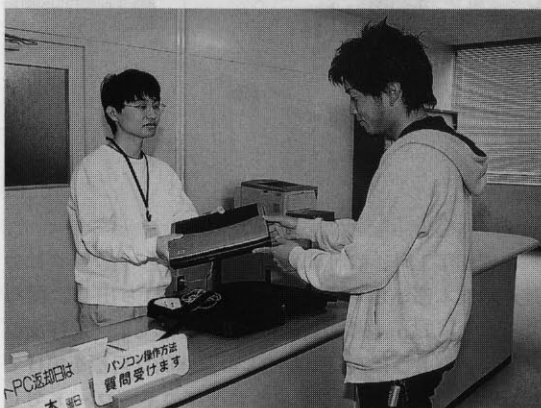
九州共立大学 山本 洋一

九州共立大学の語学用施設は、従来型の LL 教室と LAN で接続されたコンピュータによる CAI 教室とに大別されます。LL 施設は主に学思館にありますが、その管理を担当する視聴覚教育研究室には、マルチメディア教材の編集や準備を行う教員用設備も整えられています。また、プロジェクターや DVD プレーヤー等のオーディオ機器の教員への貸し出し、学生への DVD、ビデオ貸し出し業務も同研究室が担っていますが、これまで学生アンケートなどの要望に応じて配備した DVD、VHS は約 3500 タイトルを数えるまでになりました。ビデオ等の視聴や語学自習には、付設の AV ルームがいつでも利用できます。

LL 教室に関していえば、第 1 LL・AV 教室、第 2 LL・AV 教室には、それぞれ 54、64 ブースにモニターが設置されたフルラゴ設備に加え DVD・LD・ビデオキャプション等の視聴覚機器が設置されています。他に AV 教室は 18 あり、コンピュータ・教材提示装置・プロジェクター・モニター・DVD・LD・CD プレーヤーが設置され、語学教育をはじめ視聴覚教育に利用されて

います。

CAI 教室は、主に情報教育センターが管理運営している第二学舎 1 階、2 階にあります。学内 LAN で接続された機器を利用して、音声・動画を教員ファイルに保存した上で LL 環境と同様に英会話の演習をしています。また同センターにも、メディア編集用コンピュータおよびソフトウェアが用意されており、プロジェクターの貸し出し等の諸業務も担っています。



平成 13 年度には、図書館 4 階がマルチメディアフロアへと改装されました。ここでは学生対象に、ノートパソコンの貸し出しを行っております。学生は、情報コンセントに自由に接続し、主に検索、調査、語学の自学自習などができます。またフロア内には、デスクトップパソコン 32 台、ノートパソコン 82 台情報コンセント付き机 68 席を設置し、学生や教職員がいつでも自由に利用できる環境を整えております。さらには、このフロアに隣接して、マルチメディア教室が 3 室あり、液晶モニター 3 台、講義座席 204 席、画像処理パソコン 7 台が配備され、CAI 教室として視聴覚教育、コンピュータ情報教



育、語学教育と幅広く利用されています。

その他の施設としては、教養教室が管理運営している深耕館 S417CAI 教室があります。ここに配備された PC60 台も、OS を Window XP に更新し、Linux でネットワークが構築されています。プロジェクター、ビデオ・DVD プレーヤー、教材提示装置などが設置され、語学・視聴覚教育に利用されています。また、本年度より

“e-sia” イントラパックによる Web 上英語総合学習プログラムが開設され、英語の講義に利用したり、場所(学内のみ)や時間の制約を受けずに自学自習ができるようになりました。第35回 LET 九州・沖縄支部研究大会では、“e-sia” のプログラムを体験していただくように、S417教室見学会の企画も予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上どうぞご参加ください。

2000-2001年度 支部研究会活動報告

長崎ウエスレヤン大学 金森 強

1) 研究テーマ

小学校英語マルチメディア教材の評価シートの作成ー言語的・文化的・教育的視点からの分析

2) メンバー

Robert Fouser (京都大学)
Tsuyoshi Kanamori (長崎ウエスレヤン大学)
Shinji Ogasawara (長崎大学)
Terry Laskowski (熊本大学)

3) 研究例会の日時、場所、参加メンバー(メールでの参加も可)

各研究委員で理論的基礎研究および情報の収集・分析を行い、それぞれの研究の成果を e-mail 等で報告・共有することに加え、下記の日程において研究委員数名による情報交換、研究遂行のスケジュール調整などを実施。

・2000年度 活動報告

5月13日(福岡) ファウザー、金森、ラスカウスキー
5月26日(長崎) 金森、小笠原
6月10日(長崎) ファウザー、金森
11月3日(沖縄) ファウザー、金森
2月17日(福岡) ファウザー、金森、ラスカウスキー
2月23日(長崎) 金森、小笠原

・2001年度 活動報告

6月9日(福岡) ファウザー、金森、ラスカウスキー、小笠原
6月16日(福岡) LET 九州支部研究大会にて中間発表
8月5日(愛知) ファウザー、金森
3月11日(長崎) 金森、小笠原

4) 研究の目的・方法・経過のおおまかな概要

小学英語用のマルチメディア教材の客観的評価を得るために、マルチメディア教材の評価フォーマットを言語的・文化的・教育的視点から作成することを目的とする。パイロットスタディとして、現役の英語担当小学校教員により、実際に使用しているマルチメディア教材を、このフォーマットを実際に利用してもらうことで、その結果を分析し、このフォーマットがどの程度までマルチメディア教材の内容評価に有益であるかを検証する。同時に、この評価表の使用を通して、教員自身が教材開発、使用上のポイントを気づくことも可能となるはずであり、現場教員の研修における利用の可能性においても期待できる。Web 上で集められたデータを集計、整理することで、どのような教材が存在するのか、各教材の特徴はどのようなものとなっているのか、各教員が望む活動やクラスサイズ等に合う教材等について、必要とされる有益な情報データとなるはずである。

一年目を基礎研究の期間と考え、日本、アジア(韓国)で使用されている小学校における英語教材の研究・分析を行い、評価表作成の基準作成のための情報収集を実施した。二年目には、日本における小学校英語教育の動向(特に小学校英語活動の目的、評価)を調査し、一年目の研究成果に基づき、現場に望まれる評価表の作成を行い、英語および日本語版を Web 上に提供することができた。(2001年支部研究大会で発表済み。)その後、いくつかの修正を行い、実際に現場の先生方に使用してもらうために、現場への研究の説明と関係作りに時間をかけてきたが、これまでに得られたデータ数が結論を導きだすために十分な数に達していないため、最終的な論文の作成には至っていない。

LET 支部長連絡会議に参加して

支部長、木下正義(福岡国際大学)

LET 2002年度支部長連絡会議が3月27日(木)午後1時から5時まで大妻学院記念会館2F会議室で開催された。九州・沖縄支部から小生と武井俊詳事務局長(西南学院大学)と参加した。参加者は各支部長と事務局長と國吉会長、佐藤国際交流委員長、吉成 CALL 部会委員長、滝本広報担当、黄金井事務局長の13名が参加して議事に従って進められた。以下が主な議事録である。

議 題

1. 日本学術会議会員候補者、推薦等の届け出について
2月に各支部長に対し、学術会議会員候補者及び推薦人の推薦を行ったが、各支部より推薦が無く、本部事務局幹事会においてLETからの候補者及び推薦人を決定し、3月17日に次の届け出を学術会議におこなった旨の報告があった。

a) 学術会議会員候補者〔語学・文学関連研究委員会〕:
浅野 博名誉会長

b) 推薦人〔語学・文学関連研究委員会〕:
大八木副会長

推薦人〔教育学関連研究委員会〕:
國吉会長

c) 推薦人(予備)〔語学・文学関連研究委員会〕:
見上理事

推薦人(予備)〔教育学関連研究委員会〕:
滝本理事

2. KAMALL 世界大会において勧誘された APAMALL の対応について

國吉会長より資料に基づき説明があり、APAMALL の対応について次のように対処することとなった。

a) 参加条件が不透明のため、今後佐藤国際交流員長が情報を収集し、LET として参加するか否かの結論は持ち越しとなった。

b) APAMALL 設立に際しLETが除外されている経緯、他団体との条件の差別化等についての不信心が多く表明された。

3. World CALL 2003への協力について
5月7日～10日にカナダ・バンフで行われる World CALL 2003に佐藤国際交流委員長を学会代表として派遣することが承認された。

4. FLEAT V (2005年)の準備状況について
佐藤国際交流委員長より、FLEAT V は2005年8月5～6日にPre-conference、8月8～10日に本大会が米国ユタ州のブリガムヤング大学(BYU)で開催されることが報告された。

5. 学会ロゴ公募について

1) 國吉会長より学会ロゴ公募についてもっと積極的

な呼びかけを行って欲しいとの要望があり、本部より各支部へ会員宛の公募案内を送った旨の報告があり、協力依頼がなされた。

2) 黄金井事務局長より、関西支部が英文の公募案内を作成してくれたため、学会HPに掲載した旨の報告があった。

3) 学会ロゴ決定に際し次の点が合意された。

a) 各支部でとりまとめた応募作品はすべて本部でまとめる。締め切り6月30日。

b) 応募作品がない場合は、各支部最低1編は提出することとする。

c) 最終決定は15年度の支部長連絡会で候補を選び、理事会で決定する事となった。

6. 2003年度事業について

黄金井事務局長より、今年度事業について次のことが確認された。

a) 2003年度理事会においての会長選挙の実施。

b) 2002年度の各支部会費納入帳簿のコピー提出。締め切り: 6月30日

c) 2003年度各支部の予算案作成に当たり、費目を全国で統一する。

d) 各支部役員の異動がある場合は速やかに本部へ報告願いたい。

7. LET ホームページについて

吉成 CALL 部会委員長よりHPについて報告、提案があり次のように決定した。

a) 全国版メーリングリストを作成するので各支部は会員のアドレスを提供する。

但しこのMLは本部(各支部事務局)からの一方通行とする。

各支部が各支部会員だけのMLを持ちたいとの要望が出され、希望支部には支部のMLを持てるようにする。

b) 上記MLの扱いは各事務局長が投稿権限を持つ。そのためのキーは各事務局長が持つ。

c) 本部HPで各支部の入会を一括して行う。

d) 会員は各自の個人情報の書き換え等をWEB上で行えるようにする。

e) 各支部、部門の担当者が直接記入、削除できるエリアを設置する。

f) 本部HPトップに賛助会員、企業等のHPにリンクできる広告欄を設ける。金額については本部事務局で検討する。

g) 現在中部大学にある学会HPの削除は松本中部支部長より中部大学へ依頼する。

第43回（2003年度）全国研究大会について

支部事務局長、武井 俊 詳（西南学院大学）

染矢正一（大分県立芸術文化短期大学）

主に従来型大学共通教育教材制作者

奥田裕司（北九州市立大学）

マルチメディア大学教材制作者

今年の全国大会（関西支部担当）は通算43回目に関西外国語大学の新設の中宮キャンパスの最新の施設設備のお披露目も兼ねて7月31日から8月2日の3日間に亘って開催されます。

詳しくは、関西支部のホームページ（<http://www.let-kansai.net/>）をご参照ください。

なお、特筆すべきは九州・沖縄支部の企画フォーラムです。第2日の8月1日です。

【九州・沖縄支部担当フォーラム企画】

テーマ：コミュニケーションな英語に向けた英語教材はどうあるべきか ―中・高・大の視点から―

司会者：石井和仁（福岡大学）

パネリスト：

武井俊詳（西南学院大学）中学校のテキストライター

高梨芳郎（福岡教育大学）高校のテキストライター

また、同日の講演は次のように決まっております。

▼講演1「光で探る脳のはたらき：人体の可視化技術と脳可塑性」
定藤規弘（岡崎国立共同研究機構生理学研究所）

日程と会場は下記のとおりです。新設のキャンパスを、是非見に行きましょう。

▼日時：7月31日（木）～8月2日（土）の3日間

▼会場：関西外国語大学中宮キャンパス

〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1

▼大会テーマ：「外国語教育とメディア・認知・コミュニケーション：明日への戦略を考える」

第44回（2004年度）全国研究大会に向けて

大会実行委員長 大 津 敦 史（福岡大学）

▼懇親会会場：マリエラ（船上パーティー）

▼実行委員：(50音順)

石井 和仁、石川富紀子、大津 敦史、
大里 文人、小川 直義、奥田 裕司、
川尻 徳、木下 正義、柴戸 直善、
島谷 浩、武井 俊詳、竹野 茂、
テリー・ラスカウスキー、東條加寿子、
富岡 龍明、樋口 晶彦、山内ひさ子

（以上、運営委員から17名）

染矢 正一、川上 典子、田口 純、
長 加奈子、東矢 光代、中野 秀子

（以上、運営委員以外から6名）

（総勢 23名）

時の過ぎるのは早いもので、西南学院大学を会場とし、池浦前九州支部長の下で全国研究大会の運営に従事してもう5年になります。わが支部の場合、6年に1度の担当ということで、来年がその年に当たります。第44回（2004年度）全国大会では、これまでとは異なり、大学施設以外での開催を予定しております。そのため、予算のことが一番心配ではありますが、無理・無駄の無い予算案の作成に苦心するとともに、現在、関係諸財団から補助金を得ようと、事務局と一緒に鋭意努力をしております。この度、大変お忙しい中、実行委員をお引き受けいただきました先生方には、心から感謝申し上げます。これから始まります諸準備におきまして、先生方のご協力を切にお願い申し上げる次第でございます。どうかよろしくお願いいたします。

▼日時：2004年7月28日（水）～30日（金）の3日間

▼メイン会場：福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1

▼ワークショップ（市民フォーラム）会場：

西南学院大学

〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92

現在、実行委員会では、大会テーマおよび市民フォーラムのテーマについて検討中です。5月17日（土）の第1回実行委員会で決定される予定です。

事務局からの報告・連絡

【新会員】2002年11月1日以降（50音順）

株式会社エス・キュー・マーケティング

梶野 賀一 福岡市立城南中学校

Stephen F. Culhane 鹿児島大学

許 慧 熊本大学（大学院生）

樋口 功 西南学院大学

堀口 順子 九州共立大学（非常勤）

真武 香 西南学院大学（大学院生）

山本 洋一 九州共立大学

雪丸 尚美 福岡教育大学（大学院生）

吉原 将太 長崎純心大学

【2003年度 LET 九州・沖縄支部研究大会】

期 日：2003年6月14日（土）

会 場：九州共立大学（北九州市八幡西区）

シンポジウム：e-Learningの現状と今後の展望：「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を受けて

【2003年度 LET 全国研究大会】

3 ページ「第43回（2003年度）全国研究大会について」を参照ください。

【会費納入のお願い】

2002年度までの年会費（団体・個人6,000円、学生3,000円）をまだ納入されていない会員は、できるだけ早目に振り込みくださいますようお願いいたします。

なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

【LET ホームページ】

〈LET 本部〉 <http://www.j-let.org/>

〈LET 九州・沖縄支部〉

<http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

※2003年3月にLET九州・沖縄支部「紀要」第3号を発刊しました。ご入用の方には700円（実費）と郵送料210円でお分けします。支部事務局まで申し込みください。

Panasonic

L³ Stage

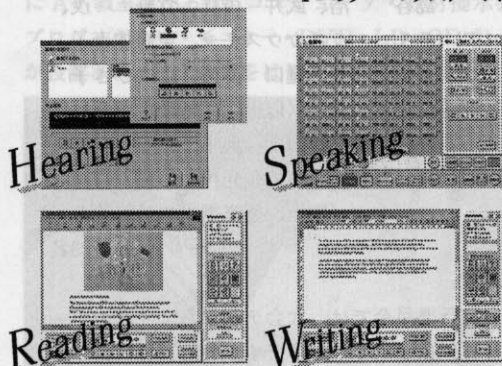
エル・キューブ・ステージ



LLをPCベースで、AVも取り込んで—— 語学学習の、新しいラーニング・ステージ誕生。

グローバルな活動ができる人材育成のための語学学習、ITリテラシーを身につけるための情報演習、より深い理解のためのマルチメディア視聴覚授業。いま“学び”の場では、新たな学習環境が求められています。こうしたご要望に即応できる、パナソニックの「L³Stage」。PCベースのLLを、AVも取り込んで、1つのラーニングステージにまとめて速やかに構築できます。

マルチメディア授業支援システム



スピードコントロール

学習者のレベルに合わせて、自然な音程のまま、速く・遅く（±30%）再生スピードをコントロール。

教材オーサリング

高音質デジタル音声教材も、ブラウザーを使うWBT（Web Based Training）型教材も、簡単編集。

チームティーチング

業界で初めての新機能。きめ細かい授業のための、2人の先生による少人数学習などをサポート。

簡単操作

やさしくふれるタッチパネルと、やさしく使えるGUI画面で、授業はスムーズ。

●お問い合わせは パナソニック SS マーケティング株式会社

<http://panasonic.co.jp/ps/pssm/>

本 社：〒107-0052 東京都港区赤坂4-5-15

九州社：〒812-8642 福岡市博多区榎田2-2-36（STSビル）

（旧 九州松下システム株式会社）

電話 03-5562-6550

電話 092-415-2836

パナソニック教育関連ホームページ

e³ Solution Site（イーキューブソリューション サイト）

<http://www.e3.panasonic.co.jp/>